

第1章 武蔵野台地と東京低地の形成

1	関東平野と周辺部の地形・地質の配列	14
2	氷河性海面変動	21
3	関東平野主要部の地形	31
4	武蔵野台地の形成	37
5	地下に分布する関東ローム層と深い谷	45
6	沖積層の基底	54
7	有楽町海進と奥東京湾	57
8	奥東京湾の埋積と低地の形成	60
9	武蔵野台地を開析する河川	66
10	埋立ての歴史	71
11	地盤沈下による改変	76

第2章 地形形成史を訪ねて

1	愛宕山	84
2	自由が丘——荏原台（S面）と久が原台（M2面）	89
3	等々力溪谷	96
4	狛江周辺——立川面（TC面）	103
5	本郷台（M2面）	107
6	早稲田・神田川——台地を開析する河川	122

第3章 災害の跡を訪ねて

7	根岸・山谷堀・待乳山	126
8	竹ノ塚から毛長川	137
9	霞ヶ関から丸の内へ——日比谷入江・江戸前島・平川	144
10	臨海副都心と新木場周辺——埋立地	158
11	南砂町から錦糸町駅へ——地盤沈下地帯	166

第4章 災害対策を訪ねて

1	東京の水害	175
2	金町駅から桜堤——カスリーン台風による外水氾濫	179
3	洲崎・銀座・森下——高潮災害（大正六年高潮災害）	186
4	善福寺川・和田堀公園——内水氾濫	193
5	東京を襲う地震	202
6	水道橋・飯田橋——安政江戸地震	210
7	両国駅から横網町公園——関東地震	220
8	多摩川の水害	229

1	荒川放水路と岩淵水門	239
2	神田川下流部の水害対策	248
3	仙台東川公園——内部河川の処理	258

4	木場の移転と外郭堤防建設——高潮対策	265
5	白鬚防災拠点 東・西地区——防災拠点の建設	272
6	江戸・大島・小松川 防災拠点	279
7	防災生活圏構想から防災都市づくり推進計画へ(その一)	286
8	防災生活圏構想から防災都市づくり推進計画へ(その二)	291
9	林試の森周辺・荏原地区——重点整備地域	296
10	有明の丘——基幹的広域防災拠点	305
	あとがき	310
	参考文献	318

松田磐余 (まつだ いわれ)

1939年、東京都品川区生まれ。1967年、東京都立大学大学院修士課程修了。同大学理学部教授を経て、現在関東学院大学教授。理学博士。

東京都防災会議地震部会専門委員、東京都地域危険度測定調査委員会副委員長などを歴任。主な著書に『実録 安政大地震—その日静岡県は』(共著、静岡新聞社)、『地盤と震害—地域防災研究からのアプローチ』(共著、横書店)、『東京湾の地形・地質と水』(分担執筆・築地書館)など。

えど どうきょう ちけいがくさん ぼ ぞう ほ かいていばん
江戸・東京 地形学散歩 増補改訂版
災害史と防災の視点から フィールド・スタディ文庫 2

2008年2月20日 第1版第1刷発行
2009年3月15日 増補改訂版 第1刷発行

著者 まつだ いわれ
松田磐余

発行者 芳賀 啓

発行所 株式会社 之 潮 (コレジオ)
〒185-0021 東京都国分寺市南町 2-18-3-505
電話 042-328-1503 FAX 042-328-1504
http://www.collegio.jp info@collegio.jp

装幀 毛利一枝

印刷 富士リプロ株式会社

参考文献

第1章、第2章 地形形成に関わる文献

青木 滋・柴崎達雄 (1966)「海成“沖積層”の層相と細分問題について」『第四紀研究』5巻、pp.113-120。

遠藤邦彦・小杉正人・鈴木 茂・菱田 量 (1987)「草加市周辺の縄文海進後の沖積層層序と古環境」『日本大学文理学部自然科学研究所紀要』22号、pp.47-56。

遠藤 毅 (2004)「東京都臨海域における埋立地造成の歴史」『地学雑誌』113巻、pp.758-801。

遠藤 毅・川島真一・川合将文 (2001)「東京下町低地における“ゼロメートル地帯”展開と沈静化の歴史」『応用地質』第42巻2号、pp.74-87。

沖 大幹 (2007)「地球規模の水循環と世界の水資源」『日本地球惑星学会連合ニューズレター』3巻、pp.1-3。

貝塚爽平 (1979)『東京の自然史 (増補第2版)』紀伊國屋書店、239p。

貝塚爽平 (1990)『富士山はなぜそこにあるのか』丸善 (株)、174p。

貝塚爽平・松田磐余 (1982)『首都圏の活構造・地形区分と関東地震の被害分布図』解説書、内外地図。

貝塚爽平ほか編 (2000)『関東・伊豆小笠原』日本の地形4、東京大学出版会、349p。

菊地隆男 (1979)「関東平野中央部における後期更新世以降の古地理の変遷」『第四紀研究』17巻、pp.215-221。

菊地隆男 (1993)「東京湾湾底と周辺地域の第三紀層および第四紀層」貝塚爽平編『東京湾の地形・地質と水』築地書館、pp.21-66。

菊池山哉 (1956)『五百年前の東京』東京史談会 (覆刻版1992、塩見鮮一郎解説、批評社)、206p。

木村克己・石原与四郎・宮地良典・中島 礼・中西利典・中山俊雄・八戸昭一 (2006)「東京低地から中川低地に分布する沖積層のシーケンス層序と層序の再検討」『地質学論集』59号、pp.1-18。

久保純子 (1988a)「相模野台地・武蔵野台地を刻む谷の地形—風成テフラを供給された名残川の谷地形」『地理学評論』61巻 (Ser. A)、pp.25-48。

久保純子 (1988b)「早稲田大学周辺の地形—武蔵野台地と神田川の非対称谷に関連して」『早稲田大学教育学部学術研究』37号、pp.57-73。